

## 青葉区東二地区民生・児童委員協議会

### ～当地区の現状及び関係機関・専門機関との連携事業について～

(平成 25 年 9 月 4 日掲載記事)

#### <はじめに>

本地区は仙台市の中心部に位置し、行政・金融・交通・商店街の拠点、集中地区です。震災による建物の倒壊はほとんどなく（一部損壊の被害は相当あり、いまだに修理が未完成、建て直しが未着工の建物もある）津波被害は皆無でした。

しかし、市の中核部であるため、集辺地区と異なる諸問題も多々ありました。以下、そのいくつかをご紹介します。

- ①居住者のほとんどがマンション住まいであり、ひとり暮らしや高齢者夫婦世帯が多い。
- ・日頃から住人同士で顔の見える近隣つき合いができていない。
  - ・民生委員としても、プライバシーの問題もあり、立ち入れない部分がある。
  - ・インフラ不能状態になると、高層マンションへの行き来は難しい。  
（セキュリティーが完備されたうえ、停電になるとエレベーターが動かず、10～29階への声がけ、訪問は難しい。・・・孤立状態も発生した。）

#### ②地区避難所の問題

仙台駅を含む中心部なので、帰宅困難者の多くが、地区の指定避難所（学校・市民センター等）に殺到し、地域住民は一時、行き場を失った。



発災直後、小学校 111 校、中学校 56 校、市立高校 3 校が避難所開設

- ③昼間（日中）人口と夜間人口の差が大きい。
- ・帰宅困難者への対応
  - ・居残った通勤者への飲食料（衣料）
  - ・声がけや支援に関わる成人住民の不足

以上、当地区の地理的状況、震災時の諸問題を挙げましたが、現在は、直接日常的に働きかけが必要な仮設住宅や借上げ住宅に暮らす被災者はいないようです。しかし、当民児協としては、今回の大震災の経験から、自助、共助の大切さを痛感したところです。

そこで、関係機関（地域包括支援センター、市民センター、町内会・消防分団・社協など）と連携しながら、以下の取り組みを行なっています。

#### ①「筋力アップ体操教室」

健康・体力の維持・増進を目指して、現在は月 2 回のサークル活動となっている。



②「図書閲覧、貸し出し」

大震災の風化防止、今後の防減災につながる図書・写真集および心の糧になるような一般図書を用意し、市民センターのロビーに置いてもらっている。



③「炊き出し訓練」

大釜の使い方やアルファ米の炊き方などの訓練を行なっている。

④「青中懇話会」

学区内の保育所、幼・小・中学校、連合町内会、市民センター、民児協、社協、仙台市街づくり課等との話し合い（問題点と今度の対策等）。



<終わりに>

当地区の住民は、直接的な大津波等の被災は免れましたが、知人・友人等の被災から、間接的・精神的に相当なダメージを受けています。そのことに対し、私たち民生委員・児童委員はどこまで寄り添うことができるかを感じています。

私たちにできることは何か、今も定例会のたびにテーマとして取り上げています。